

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)	◎	－	－	－
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・11月の売上は前年比で146%、前々年比で166%、新型コロナウイルス感染症発生以前の2019年比で89.6%まで回復してきた。これは全国旅行支援が開始されたことの効果とみられる。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症発生前の水準を考えるとまだまだではあるものの、インバウンドを含めて旅行者による購買が増えている。
	○	スーパー（役員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第8波の影響で内食需要が高まっている。特に手間を掛けずにすぐ食べることのできる総菜の売上が増加している。
	○	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・客の動きがアフターコロナを意識したものになっている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3か月前と比べると、メーカーの生産台数が多少増えているため、登録台数も僅かではあるが増えている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の納期が遅れていることが客に浸透してきたこと、新型車の発表があったことから、客が車の購入を早めを考えるようになっており、受注状況がやや良くなっている。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・全国旅行支援が開始されたことで、個人旅行、団体旅行が増加している。11月の航空機利用者は2019年の9割超まで回復している。国際線についても、水際対策が10月から緩和されたこと、台湾や香港の渡航規制が緩和されたことで、冬季スケジュールからアジア路線が再開しており、外国人観光客も徐々に増えている。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・人流を抑制するような制限がないことから年末年始の旅行需要が増えている。
	○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・全国旅行支援真ただ中の当地では、連日、クーポンを握りしめた客でにぎわっている。当施設の利用者数も例年の8割程度まで回復している。これまで控えていた消費行動をこころざとばかりに行っている雰囲気もうかがえる。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数、販売量は増えているものの、客単価がなかなか上昇してこない。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・全国旅行支援による下支えはあるものの、北海道の新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているというニュースが多いため、9月や10月と比べると11月の来客数は若干勢いに欠けている。若い世代は活発に動いているが、年配者が少なくなっている。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・11月に入り、新型コロナウイルスの新規感染者が過去最多を更新していることもあって、人の動きにブレーキが掛かっており、飲食店もその影響を大きく受けている。酒の納入業者である当社においても大きな影響が出ている。
	□	一般小売店（経営者）	販売量の動き	・物価高の影響で客単価は上昇しているが、その分来客数が減っている。売上としては余り変わらない状況にある。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・国内客の消費は物価高の影響もあり、平行線かやや下向きで推移しているが、インバウンドによる消費が週を追うごとに伸びている。円安の影響もあってインバウンドの購買意欲が高まっている。
	□	スーパー（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染状況によって良くなったり、悪くなったりを繰り返している。客のマインドとしてコロナ慣れの傾向はみられるが、それでも感染状況に左右されているため、結果として景気は変わらない状況にある。
	□	スーパー（店長）	来客数の動き	・原価高騰に起因する商品単価の上昇もあって、売上は前年並みの水準で推移している。しかしながら、北海道において新型コロナウイルス感染症の第8波といわれるような感染拡大が続いていることで、客が総合スーパーを避けて食品スーパーに流れる傾向がみられ、来客数がなかなか伸びてこない状況にある。

<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・3か月前と比べて、景気は変わっていない。ただ、この先は来客数の減少が免れないため、客単価を引き上げていくことが求められる。また、来店してもらうための施策を展開し、来店機会を増やしていくことも必要である。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・商品単価の上昇もあって、売上は維持できているが、光熱費や人件費などの営業経費が増えている。客の生活防衛による買い控えの動きが強まることも懸念される。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（エリア担当）	お客様の様子	・消費全体としては上向きになっているが、物価上昇の影響で衣料品への支出が抑えられている。また、冬らしくない天候の日が続いていることで冬物衣料の販売動向が芳しくない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売面については、9月頃から目標が達成できており、12月は全店で目標を達成するなど、順調に上向いている。ただし、サービス来場の減少、客単価の低下など、苦戦している状況もみられることから、全体的には変わらない。
<input type="checkbox"/>	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の状況に落ち着きがみられるようになってきたが、生活全体的に値上がりの波が押し寄せるなど、物価上昇の動きが強まっている。客も来店はするが、購買に至らないことが増えている。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が高騰していることで、客の節約志向が強まっている。販売価格に対しても敏感である。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 〔造花〕（店長）	お客様の様子	・季節のイベントなどもあって需要は安定している。ただ、仕入商材の価格高騰がいまだに続いており、利益が減少している。今後も値上がりが続くとみられることから、厳しい状況にある。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・10月まで売上は増加傾向にあったが、11月に入り新型コロナウイルスの新規感染者数が急増すると同時に、来客数が落ち込み始め、売上も減少している。昼の落ち込みは少なかったが、夜の落ち込みが大きく、特に年齢の高い層の来店が減っている。ただ、月全体の売上は例年の50%を超えるとみられることから、景気は3か月前と変わっていない。今後についても、ディナーや忘年会の予約が低調なことから、期待が持てない。世間的にクリスマスケーキの予約が増えていることもマイナスである。観光客は一時増えたが、今は落ち着いており、今月の当店には余り影響がなかった。地方の飲食店については、観光客が訪れるような活気のある街では、混んで予約を取りにくい店もあるなど、割と景気が良さそうだ。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大が続いているものの、来客数が大きく減少するような動きはみられない。ただ、物価上昇の影響が少しずつみられるようになってきている。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・10月から始まった全国旅行支援の影響は大きいですが、これまで都道府県と市町村による2つの割引が適用されていたものが全国で1つの割引になったこと、既存の予約にも割引が適用されたことから、新規の予約が伸びにくい状況であった。そのため、景気が良くなったとも悪くなったとも言いにくい状況である。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第8波の影響がみられ始めていること、国の施策に大きな変化がみられないことから、景気が上向き気配がない。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴って、客の動きにも変化がみられる。日中の病院関係者による増える一方で、イベント関係での利用が減っており、全体的には変わらない状況にある。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	来客数の動き	・ここのところ観光客が回復しつつあるが、当社への影響はまだはっきりとしていない状況にある。今後の動きを注視していきたい。

□	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信サービスにおける他社への流出は若干減少しているものの、通信端末の契約を伴わないSIMカードのみの契約で他社との割引合戦が激化しており、競合他社との競争の激しさは変わっていない。
□	通信会社（エリア担当）	それ以外	・携帯キャリアの戦略による影響がみられる。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・11月に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているが、以前とは異なり、来客数や売上に変化が出ていない。最近では新型コロナウイルスの新規感染者数に余り左右されないようになってきている。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに来訪する客の購入意欲は相変わらず高く、意思決定に要する時間も短い。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の声として、物価上昇の影響が大きく、家計のやりくりが大変だという話を聞くことが多い。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・ようやく経済状況が上向いてきたところであったが、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加とともに大きく後退し始めた。特に年配客の動きが顕著で、11月上旬から街中で見掛けなくなってきた。また、大人数の宴会予約もキャンセルが続出している。特に忘年会シーズンである12月のキャンセルが多く、飲食業界にとって深刻な影響が出てくることを懸念している。
▲	百貨店（マネージャー）	単価の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急増していることで、買上客数が今年3月以来の前年割れとなった。また、物価高の影響で高単価商材の動きが鈍い。3か月前の客単価が前年比96%であったのに対して、11月は前年比86%と低下している。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大がみられるなか、食品スーパーの来客数は3か月前と比べて回復傾向にあるものの、商品単価上昇の影響が大きく、買上点数が減少している。
▲	スーパー（企画担当）	単価の動き	・新規ディスカウントスーパーの出店により、競合している自社店舗の来客数が減少している。一方、自社の改装した店舗では、品ぞろえの強化と低価格品販売により来客数が増加している。これらのことから、客が価格の安い店舗に流れる傾向が強まっている。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・例年は10月から来客数が増加する傾向がみられるが、今年は増えてこないことから、景気はやや悪くなっている。
▲	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・ようやく来客数が回復してきた状況にあったが、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加するにつれて、来客数が明らかに減ってきている。
▲	家電量販店（店員）	お客様の様子	・家電業界においても値上げの第2波が訪れている。客の買い控えが進んでいるのか、購入決定率も低い。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・全国旅行支援の影響で来客数が増加することを期待していたが、期待ほどの効果はみられなかった。11月に入り、当地の新型コロナウイルスの新規感染者数が度々更新されるなど、感染状況が徐々に拡大傾向にあることから、前年と同じような状況になっており、勢いが感じられない。
▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・3か月前は新型コロナウイルス感染症の第7波の出口ということもあって、旅行需要が回復傾向にあったが、現在は第8波の入り口であり、旅行需要が日々減少している。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・コロナ禍による行動制限などは行われていないが、11月に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えていることで影響が出ている。ニュースで取り上げられるたびに人出が少なくなっており、それに伴ってタクシーの利用も減っている。特に夜の遅い時間帯の利用客が減っている。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・当地における新型コロナウイルスの新規感染者数が減らず、今後更に増加するおそれもあることから、外出自粛ムードが一層強まっている。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価高が消費にかなりの影響を与えており、景気はやや悪くなっている。

	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・年度末に向けた追い込みもあって、公共事業などの工事関連での輸送量は増加傾向にあるものの、観光での輸送量は季節的なこともあって、大きく減少している。全体的には景気はやや悪くなっている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・これまで木材を始めとした建築資材が高騰していたことから、住宅建築が減っており、建売住宅も売れなくなっている。ただ、ここに来て資材価格が頭打ちしており、今後価格が下がるとみられることは明るい材料である。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・11月上旬までは景気が回復傾向にあったが、新型コロナウイルスの感染状況が急激に拡大していることで、昼間も夜間も来街者数が伸びなかった。道内からの観光客の入込も期待以下であり、低調なまま推移している。
	×	百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、来客数が前年を下回るようになってきた。それに伴って僱事関係も苦戦を強いられている。
	×	スーパー（従業員）	来客数の動き	・食料品の値上げによる買い控え傾向がみられる。コロナ禍で客の来店頻度が低下しているなか、来客数がますます減少している。客単価は上昇しているものの、売上確保が困難な状況になっている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・10月頃までは客がかなり来店していたが、11月に入り、新型コロナウイルスの感染状況が大幅に拡大していることから、キャンセルが増え、とても困っている。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・冬季シーズン前という季節要因もあるが、国内客もインバウンドも本州方面に流れており、道内への入込が減少している。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波が収束し、景気も上向き傾向にあったが、当地では第8波ともいえる感染拡大がみられていることから、人流が減少している。外出制限などは出されていないが、自粛による消費行動抑制の動きもみられており、影響が大きくなっている。
	×	通信会社（エリア担当）	それ以外	・携帯キャリアの戦略によって、代理店では悪影響を受けている。
企業動向関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・物価上昇の影響が幅広い業種でみられるものの、全国旅行支援や外国人観光客の入国制限緩和による観光関連業種の回復が道内景気を押し上げており、3か月前と比べてやや良くなっている。
	○	司法書士	取引先の様子	・政府が新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを5類相当に引き下げていることを検討していることもあって、国内の人の移動やインバウンド需要などが徐々に回復しつつある。現に観光地では以前よりも観光客が増えている。それに伴って他業種においても景気が回復傾向にある。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は伸びているものの、最低賃金の引上げがあったため、人件費が増加している。また、原材料の再値上げ通知もみられる。依然として気を抜けない状況にある。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・第一次値上げが反映されつつあることから、売上は増えているが、受注量自体は変わっていない。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・道内各地で平年よりも初雪が遅いこともあって、今のところ、各建設工事現場では降雪の影響もみられず、順調に工事追い込み期を迎えている。完工高、利益共に、受注済みの手持ち工事で年度計画達成が確実となった。
	□	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	取引先の様子	・自社も、同業他社も、取引先も、円安の影響を特に受けている様子がみられないなど、3か月前と比べて変化が感じられない。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・建設需要は都市部を中心に旺盛だが、価格転嫁が進んでいないため、採算が悪化傾向にある。

	□	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・11月に入り、売上の前年比が微増で落ち着き始めている。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注価格や販売価格の動き	・受注量、販売量は減っているが、その分、販売価格が上がっており、売上としては大きく変わっていない。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・市場の動きが悪く、ベース商材の動きが鈍い。これからの時期は季節商材が大きく動く見込みだが、例年よりも販売量が少なくなりそうだ。
	▲	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建設業界では設計の1年後に工事への影響が出てくることになる。北海道においては、業界全体的に案件が減っており、指定確認審査機関への建築確認申請がパタッと止まったというコメントも聞かれる。全国の状況を確認しているが、こうした動きは北海道特有の状況のようだ。
	▲	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大、止まらない物価上昇など、生活環境が悪化している状況にあり、土地購入や建物の新築などの低迷が続いている。景気が上向くような環境にはなく、補正予算の実行も来年に入ってからとみられるため、このままでは景気はますます悪くなる。
	×	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・11月の販売量は前年比でマイナス19%となった。3か月前の8月の販売量は前年比でマイナス9%であったことから、景気は悪くなっている。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・10月の新規求職者数が前年から0.9%減少した一方で、新規求人数は前年から15.4%増加している。今後への懸念はあるものの、業況堅調な企業を中心に求人が出されていることから、景気はやや良くなっている。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における10月の有効求人倍率は0.99倍であり、3か月前との比較では0.05ポイント上回っている。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・コロナ禍で不景気が長く続いていた観光、旅行、ホテルなどの業種に加えて、飲食業や小売でも景気が上向いており、それに伴って企業の採用活動にも若干の活気がみられる。新卒への内定出しの状況から、企業自らの経営努力も当然見逃せないが、企業を取り巻く環境が好転していることもうかがえる。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業の求人意欲はいまだ旺盛であり、毎月、堅調に求人数が増えている。また、とにかく早く人材を採用したいという企業側の考えも強まっている。企業では、提案した人材のスキルを検討した上で面接を行っており、その面接率は通常2割から3割とされるが、最近では5割にまで上昇している。他社に採用される前に採用しようという考えもあるだろうが、それよりも業績確保に向けて人員を早くそろえて動かしたいと考えているものとみられる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・コロナ禍の影響とインターネット通販の利用拡大により、中心繁華街と郊外店では客層の構造変化が著しい。また、中心市街地の核として栄えた地元老舗百貨店が来年1月末で閉店するため、解雇される人材の再就職も含めて、その影響が懸念される。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・北海道の新型コロナウイルスの新規感染者数が全国トップになったことで、採用を控える傾向が顕著に表れている。介護業界では採用関係者がり患したことで、採用活動自体ができなくなったケースもみられた。10月まで堅調に推移してきた求人数もここに来て若干減少している。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・景気回復を目指していることもあって、企業の求人意欲は、業種を問わず旺盛だが、新型コロナウイルス感染症の第8波とみられる新規感染者の増加により、全体的に求人数が足踏み状態となっている。これまでのような求人活動を行えるような先行きの見通しが立たない状況となっている。

▲	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・当地では新型コロナウイルスの新規感染者数が過去2番目に多い日を記録するなど、新型コロナウイルスの感染状況が拡大している。介護施設では、クラスターの発生に伴うキャンセルがみられた。また、飲食・観光業界では、様子見などで掲載出し控えの動きがみられる。
▲	職業安定所（職員）	それ以外	・生活必需品の相次ぐ値上げ、円安、上がらない賃金など、景気が良くなる要素がない。
×	—	—	—